



一般には馴染みがないかもしれないが、ベースメタルやレアメタルのスクラップを扱っているOHTANI SINGAPOREという企業の40周年記念パーティーが11月末、シンガポールのリッツカールトンで行われた。パーティーには160人以上の招待客が日本や世界各地から集まった。

扇谷（本社＝大阪市西区）は、約40年前からシンガポールでリサイクルビジネスを継続している老舗の企業である。支店の設立が1970年で、工場の設立が1973年だ。当時は、アメリカの半導体産業の進出先がシンガポールであったから、テキサスインスツルメンツや、ナショナルセミコンダクターから発生するリードフレーム（半導体パッケージに使われる部品）のリサイクル材を扱うためにシンガポールに進出したのだ。

高度経済成長の最中であつた当時の経営者は何事にも積極的で多少の失敗があつても臆することはなかった。前後して松下電器や三洋電機も進出を決めたために静脈産業としてリサイクル企業の機能が生かされたのだ。

そんな時、当時課長だつた池上武さんが社長に抜擢されて、シンガポールにやつてきた。初めは短期出張のつもりで現地に赴いた池上さんは、何やかやと理由をつけられて長期駐在になつてしまつたと苦笑いをされてた。池上さんは「僕はアホやか

ら務まつた」とおつしやるが、とんでもない謙遜である。

ひと口に40年というのが景気の浮き沈みの中で40年間も事業を継続するのは大変なことである。超優良企業であつた大企業にも陰りが見えるなか、中小企業にとつて海外での経営は筆舌に尽くしがたい苦勞があつたはずだ。

### アメとムチを使い分けるシンガポール

わが社（AMJ）がシンガポールに現地法人を設立したのはわずか2年前である。发展目标らしいアセアンの中心にあるシンガポールの立地条件や、レアメタルビジネスのグローバルシフトを目的として現地法人を設立したのである。前も後ろもよく判らないシンガポールでの経営について池上さんから懇切丁寧な指導を頂いた。

そうするうちにシンガポール政府の強かさも勉強することになった。確かにシンガポールには税制上の優遇措置はあるが、一方で義務や責任も多く課せられるシステムになつて

いる。例えば、雇用問題や土地の活用についての義務が発生する。扇谷の場合、シンガポール



シンガポールのジュロン工業地区と沖待ちする多数の船

## AROUND THE WORLD 山師の手帳 中村繁夫 Shigeo Nakamura

### 第37回 40周年を迎えたシンガポールの日本企業 「継続は力なり」と「進取の気風」

写真・生津勝隆 Masataka Namazu

のジュロン工業特区での土地の賃貸期間は50年である。池上さんも工場用地のリース期間が終了する前に、新しい場所に移転をしなければならぬのだ。幸運にも良い条件の土地が見つかったので、2015年には新工場への移転も決定したから良かったが、その経費負担も馬鹿にはならない。

日本は貿易立国である。さらに国際化を進め海外拠点に進出して行かなければならないが、昨今の日本企業にはハングリー精神が不足しているように思う。海外で生活することは決して楽ではないが、国内で何もしなければ蝟蟪状態の中で茹蟪になってしまうとを理解するべきだ。過去の成功体験の繰り返しをしていてはシーラカンスになってしまう恐怖を感じなければならない。

常に困難に立ち向かい挑戦を続けなければ資源のない日本は持たないことを再確認するべきだ。「進取の気風」がない会社は朽ち果てて行く運命である。40年前の日本人は臆面もなく海外に進出していったのである。

2015年を迎えるにあたりもう一度原点に立ち戻り二つの言葉を噛みしめたい。「継続は力なり」と「進取の気風」の原点に立ち戻りたいものだ。

なかむら・しげお レアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長。日本におけるレアメタルの第一人者。世界100カ国を訪問し、世界制覇を目指す。

